

小学生のスギ花粉症とそれに関連する因子の検討

出典 千葉大学環境科学研究報告 (0386-2119) 27 巻 Page9-14 (2002. 03)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003161113>)

著者 島正之 他

調査地域 千葉県君津市

調査時期 1999~2001 年の 9~10 月

調査対象 小学生

依頼数 1999 年 : 1334 人
2000 年 : 1265 人
2001 年 : 1257 人

回収数 (率)	質問紙	採血実施者数
	1999 年 : 1330 人 (99.7%)	1160 人 (87.0%)
	2000 年 : 1263 人 (99.8%)	1121 人 (88.6%)
	2001 年 : 1251 人 (99.5%)	1087 人 (86.5%)

診断方法 ISAAC

有症率	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年
鼻症状 (%) :	25.6%	28.8%	29.0%	27.6%	28.4%
鼻・結膜症状 (%) :	11.6%	13.5%	12.9%	12.7%	14.5%
季節性症状 (%) :	7.8%	8.4%	11.0%	10.4%	12.7%
スギ抗体陽性 (%) :			24.2%	27.5%	33.6%
季節性症状					
+スギ抗体陽性 (%) :			6.7%	8.3%	9.7%
季節性症状有症者の					
スギ抗体陽性率 (%) :			59.2%	70.1%	75.0%

調査概要 千葉県の小学生のスギ花粉症と関連因子を調査した論文。花粉症は増加傾向、高学年になるほど高率となり、成長と共にスギ抗体陽性率も高くなっており、スギ花粉への暴露が大きく関与していることが示された。